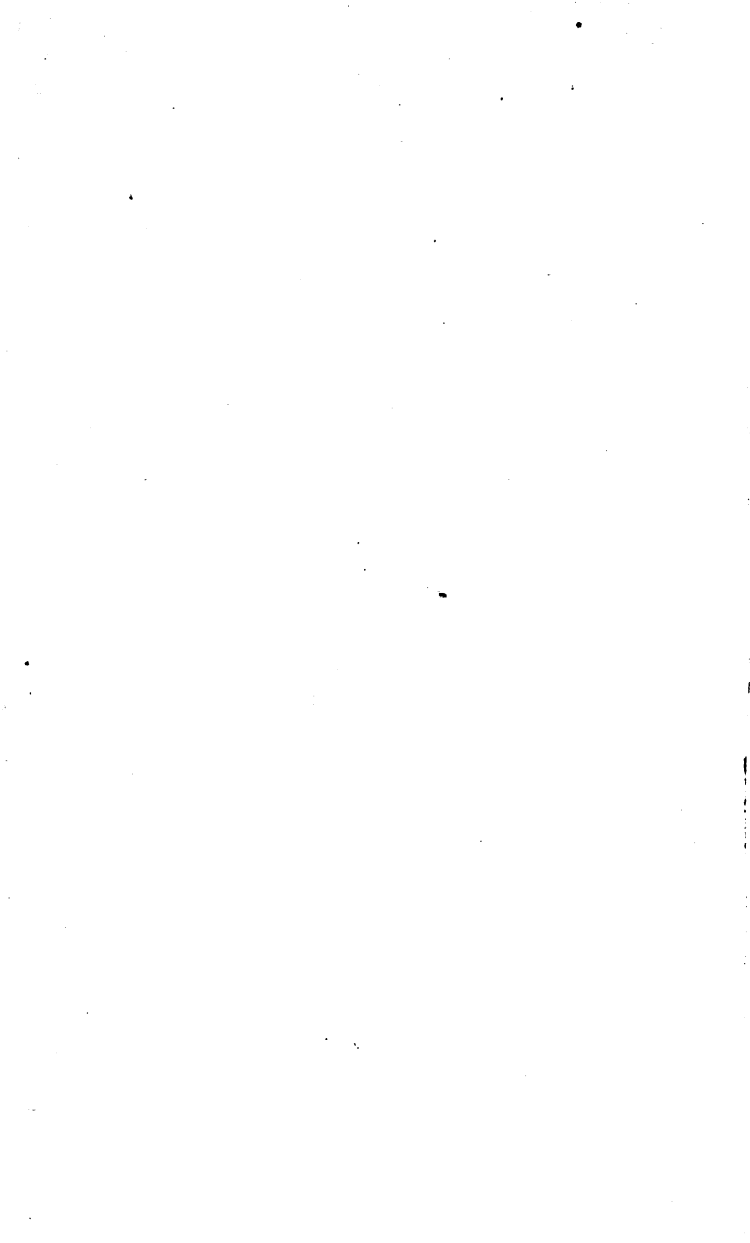


近松淨瑠璃集

上



## 緒言

近松門左衛門、姓は杉森、名は信盛、平安堂巢林子等の號あり。承應二年に生れ、享保九年十一月二十二日七十二歳を以て歿せり。産地につきては異説紛々たれども、就中、長州萩の産にして、肥前唐津の近松寺に遊學し、因つて近松と稱したりとする説と、京都に生れ三井の近松寺に在りきとする説と、廣く世に傳へられ、近來後説を信ずる者多し。初め京都の堂上方に仕官せしが、やがて仕を辭し、近松門左衛門と稱して狂言淨瑠璃の著作に従事し、延寶五年、二十五歳の時には、既に狂言作者として名聲を馳せたり。後元祿四年大阪に轉住し、専ら竹本筑後掾の爲めに淨瑠璃を著はせしが、其作物次第に老成圓熟の域に進み、元祿十六年、初めて當時の事實を仕組みた

る心中物「會根崎心中」を出すに及びて、益々其戯曲的天才を發輝して世間の大喝采を博せり。爾來或は世話物に、或は時代物に、年々述作の筆を絶たず、其作前後通じて百十數番の多きに上れり。彼が文學史上の地位につきては、既に世評の動かすべからざるものあり、改めて茲に贅せず。

本卷に收めたるは左の諸篇にして、其題名、登場年月、年齢等を表示すれば左の如し。

出世	景清	貞享三年二月	三十四歳
源氏冷泉節		貞享五年正月	三十六歳
松風村雨束帶鑑		元祿七年三月	四十二歳
釋迦如來誕生會		同 八年四月	四十三歳

百日曾我	元祿十年十月	四十五歲
源氏烏帽子折	同十二年正月	四十七歲
長町女腹切	同十三年正月	四十八歲
淀鯉出世瀧徳	同四年四月	同
蟬丸	同十四年五月	四十九歲
最明寺百人上藤	同十六年三月	五十一歲
曾根崎心中	同年五月	同
薩摩歌	同十七年正月	五十二歲
心中重井筒	寶永元年四月	同
雪女五枚羽子板	同二年七月	五十三歲

今本書を公にするに當りては、一々七行本十行本等の木版本に基き、漢字

を配し、振假名を正したる外、語格假名遣の普通の用法に違へるものに至るまで、一字一句も苟もせず、唄、三重等記號の必要なるものを存置し、地の文と詞とを區別し、語句の解を要するものは成るべく出典を舉げて之を鼈頭に註せり。

明治四十五年六月

校註者 忠 見 慶 造

近松淨瑠璃集 上卷 目錄

出世景清

第一……………一  
 第二……………七  
 第三……………一四  
 第四……………二〇  
 第五……………二八

源氏冷泉節

上之卷……………三五  
 下之卷……………四六  
 冷泉節……………五六

松風村雨束帶鑑

釋迦如來誕生會

第一……………六一  
 今様うげぞろへ……………六六  
 第二……………七八  
 第三……………九一  
 龍神風流……………一〇四  
 第四……………一〇八  
 司の前道行……………一〇八  
 當世獨樂盡し……………一一一  
 第五……………一一五  
 第一……………一二一  
 第二……………一三三  
 第三……………一四六  
 悉達太子道行……………一四六  
 第四……………一六二

百日曾我(一名關扇曾我)

第五.....一七九

第一.....一八五

第二.....一九九

けいせい請狀.....二〇四

第三.....二一〇

第四.....二二〇

とら少將道行.....二二二

三ぶきやう.....二二七

第五.....二三二

歌仙.....二三六

源氏烏帽子折

第一.....二四一

第二.....二四八

常磐御前道行.....二四九

第三.....二五六

烏帽子折名づくし.....二六〇

第四.....二六三

第五.....二六九

牛若宮めぐり.....二七二

長町女腹切

上之卷.....二七五

中之卷.....二八六

お花半七道行.....二九五

下之卷.....二九六

淀鯉出世瀧徳

上之卷.....三〇五

あづま勝二郎初もめん.....三二一



蟬 九

下之卷・・・・・・・・・・・・・・・・三二三

第一・・・・・・・・・・・・・・・・三三七

きふれ詣で・・・・・・・・三四二

第二・・・・・・・・・・・・・・・・三四五

第三・・・・・・・・・・・・・・・・三五二

蟬丸あふさか山入道行・・・・・・・・三五三

第四・・・・・・・・・・・・・・・・三六〇

第五・・・・・・・・・・・・・・・・三六六

懷胎十月の由來・・・・・・・・三七一

最明寺殿百人上臈

上之卷・・・・・・・・・・・・・・・・三七五

義經含狀・・・・・・・・三八一

下之卷・・・・・・・・・・・・・・・・三九九

曾根崎心中(お初天神記)

最明寺殿道行・・・・・・・・三九九

女勢揃へ・・・・・・・・四〇九

道行血死期の霜・・・・・・・・四三八

源五兵衛薩摩歌  
おまん

上之卷・・・・・・・・・・・・・・・・四四三

諸國鎧標・・・・・・・・四四六

中之卷・・・・・・・・・・・・・・・・四六一

下之卷・・・・・・・・・・・・・・・・四七九

源五兵衛おまん夢分船・・・・・・・・四七九

おふさ  
徳兵衛重井筒

上之卷・・・・・・・・・・・・・・・・四八九

中之卷・・・・・・・・・・・・・・・・四九九

下之卷	五二〇
道行血汐のおぼろぞめ	五一〇
<b>雪女五枚羽子板</b>	

上の卷	五一五
初春厄ばらひ	五一九
中の卷	五三二
もんさく系圖	五四九
下の卷	五五九
源義教公道行	五五九
近松淨瑠璃集上卷總索引	五七一